日帰り研修1日目テキスト

「じゃり道人ごみ公共交通機関を利用する研修」

この研修は、公共交通機関を利用する際の車いす介助の基礎を学びます。

お出かけ時の車いす介助をいかに気持ちよく行うかがポイントです。この研修を通して

① 人ごみ

② 寺社などのじゃり道、坂道などの悪路

③ ＪＲや地下鉄など公共交通機関

を安全・安心・快適にご案内するかがテーマです。

さらに余裕のある方は、感動や感激して頂くような旅の演出を考えるなど、あなたの感性のアンテナを高くして、できるだけ多くのことを習得して下さい。

・参加者は、実際に以下の役割を体験することによって、さまざまなことを気づき、発見していただきます。

① 車いすを利用したお客様の役割

② 車いすを利用する人を介助するトラベルヘルパーの役割

③ 周囲で客観的に観察する人 （同行する家族や日ごろ介護を行う人）の役割

特定非営利活動法人　日本トラベルヘルパー協会

～ 目次 ～

１．はじめに

２．車いすの基本操作方法

【１】車いす各部の名称
【２】車いすの広げ方
【３】車いすの折りたたみ方
【４】キャスター（前輪）の浮かせ方
【５】停止している時
【６】移動する時
【７】押し方
【８】段差の昇降
【９】内輪差
【１０】エレベーターの乗り降り
【１１】階段の上り下がり
【１２】エスカレーターの上り下り
【１３】電車の乗り降り

３．杖歩行の基本知識

【１】歩行の種類
【２】杖歩行のポイント

４．お出かけ時の車いす介助の注意点

【１】お出かけ前の確認
【２】屋外で車いすを押す時の注意点
【３】路上での注意点
【４】坂道にて車いすを押す時の注意点
【５】電車を利用する時の注意点
【６】人ごみにて車いすを押す時の注意点
【７】じゃり道にて車いすを押す時の注意点

５．実地体験

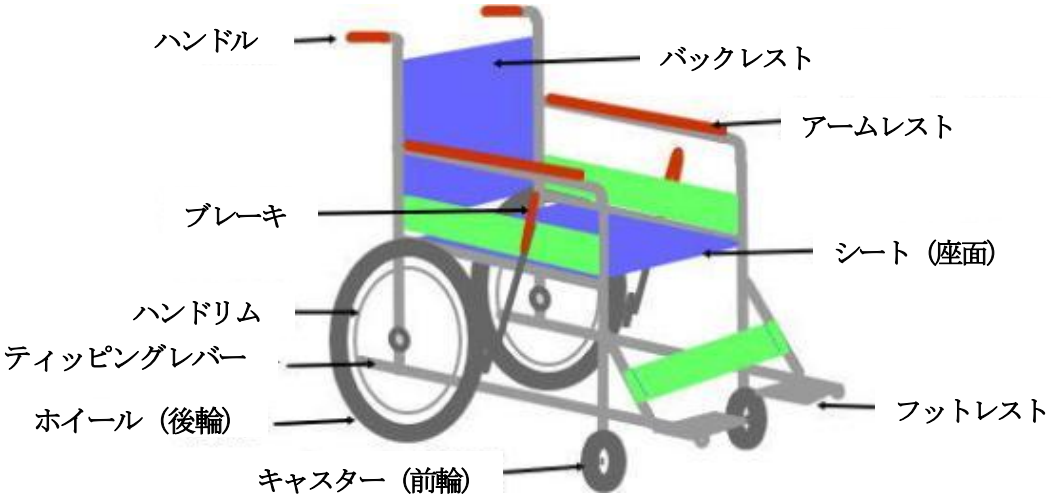
【１】実地研修行程
【２】明治神宮の情報（じゃり道）
【３】竹下通り・表参道の情報（人ごみ）
【４】JR・地下鉄（公共交通機関）

1．はじめに

車いすを利用する人、身体の不自由な人は全ての障がいが同じではありません。したがって求められる介助の内容も違ってきます。ここに書かれていることはあくまで車いすの基本的な操作方法です。トイレ、食事、買い物など日常生活の延長線にある外出を支援する場合は、本人とよく相談しながら介助するようにしましょう。

2．車いすの基本操作方法

【1】車いす各部の名称



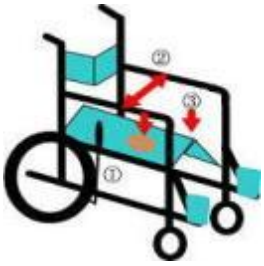
【2】車いすの広げ方

1．ブレーキが掛かっているか確認します。

2．車いすの横に立ちアームレストを両手で押し広げると少し広がります。

3．車いすの前に立ち両手をハの字にしてシートを押し下げます。この時、座席と両サイドの間に手を挟まれないように、またフットレストに足をぶつけないように注意してください。

※上記方法が基本ですが、片方のホイール（後輪）を浮かせて、浮かせた方と反対側のシートを押し下げる方法もあります。



【3】車いすの折りたたみ方

1．ブレーキが掛かっているか確認します。

2．左右のフットレストを上げます。（たたみます）

3．車いすの横に立ち、座席の真ん中の手前と奥を持ち、上に引き上げます。

4．アームレストを左右近づけて折りたたみます。

【4】キャスター（前輪）の浮かせ方

1．車いす介助の基本操作の１つで大切なことは、キャスター（前輪）を浮かす操作です。この操作を応用して、段差の乗り越えやエレベーターの乗り降りを行ないます。

2．スティッピングバーをふむことにより、梃子（てこ）の原理でキャスターを浮かせます。この時ティッピングレバーの踏み方は、真下ではなく、斜め前に力がかかるように踏み込みます。

3．手でハンドルを押し下げます。この時、後ろに倒れすぎないように注意してください。

4．お客様にも身体を少し後方に倒してもらえば、軽く操作ができます。

5．おろす場合はティッピングレバーを踏みながらそっとおろします。

※必ずお客様にキャスター（前輪）を浮かせることを伝えましょう。

【5】停止している時

車いすには、両サイドのホイールにブレーキがありあす。止まっている時や車いすに乗り降りするときには必ず両サイドのブレーキをかけてください。通常ブレーキは、後方に引くと掛かり、前方に押すとはずれます。尚、ブレーキの掛け方とはずし方が上記と逆の車いすもありますので注意してください。車いすが坂を走りだしてしまったら大変危険です。車いすを利用する人の命を預かっているので、ブレーキの操作は毎回確実に行うことを確認してください。

【6】移動する時

1．車いすを押す前の注意事項と確認内容
　○浅く腰掛けていませんか　○身体は傾いていませんか　○手はアームレスト又はひざの上にありますか（大きくはみ出していたり、ぶら下がっているような状態でないか）　○フットレストに足がのっていますか

2．両サイドのブレーキをはずします。ブレーキをはずす時は必ずどちらかの手が車いすに掛かっているようにしてください。ブレーキが掛かっていない状態で車いすから両手をはなすことは大変危険です、絶対にしないでください。

3．移動する時は
　○声を掛ける(動きます、止まります、曲がります、前を上げます等)　○急にスピードを出さない　○急に止まらない　○急に方向転換しない　○つま先を扉や壁にぶつけないように注意する　○フットレストを歩いている歩行者にぶつけない（周囲への気配り）

【7】押し方

1．でこぼこ道：車いすがうまく進まない時は軽くキャスターを浮かせてください。または、後ろ向きに進みます。

2．上り坂：前向きにのぼります。身体を少し前傾してしっかり押します。

3．下り坂：急な下り坂は後ろ向きにゆっくり下ります。急な坂道の場合、トラベルヘルパーがバックレストに自分の体重を掛けるようにすれば少ない力ですみます。ゆるい坂道の場合は前向きでもかまいませんが、前に引っ張られる感じがする場合は、後ろ向きの方が安全です。なだらかな坂を前向きで下りている時に急に止まると座位が不安定の場合落ちることがありますのでくれぐれも注意が必要です。

でこぼこ道

上り坂

下り坂

【8】段差の昇降

車いすの場合、キャスターが小さな車輪になっていますので、わずかな段差や隙間でもキャスターが引っかかったり、隙間に落ち込んだりします。キャスターを浮かすことによって避けることができます。又キャスターを浮かすことで段差を昇り降りすることができます。

1．上がる場合

1）段差に直角に車いすを止め、ティッピングレバーを踏み、ハンドルを下に押し下げるようにして、キャスターを上げ、そのまま進み、段の上にキャスターを下ろします。図 1-①

2）後輪が段差に触れたところで、段差に沿わすようにしながらハンドルを持ち上げ、上ります。図 1-②～③

1－①

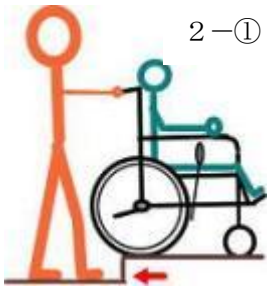
1－②

1－③

2．下がる場合

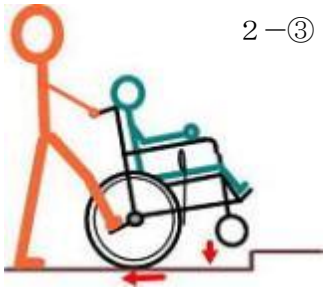
1） 後ろ向きになり段差に直角に車いすを止め、後輪を段差に沿わせながらゆっくりと静かに段差の下に後輪を降ろします。図2-①

2） キャスターを上げて後方に下がり、段差から離れてフットプレートやつま先が当たらないようにして、静かにキャスターを下ろします。図2-②～③



2－①

2－②



2－③

3．溝を越える場合

1） キャスターが溝にはまらないように手前で上げます。この時、図3－①のようにティッピングレバーを使います。

2） 溝を越えた場所に、ゆっくり静かにキャスターを下ろします。

3） 力を入れてハンドルを持ち、後輪が溝に落ちないように通過します。この時ハンドルを上げすぎるとお客様が前傾になり、車いすから落ちる危険がありますので注意しましょう。図3-②

3－①

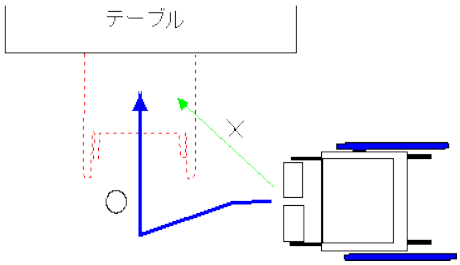
3－②

【9】内輪差

斜めに入らずに、垂直に入ることができる位置まで移動できるように動線を考えます。

自動車と同じで、車いすにも内輪差がありますので、右図のように回り込むようにして

進む方向に向きを変えていきます。



【10】エレベーターの乗り降り

エレベーターの乗り降りは、キャスターをエレベーターと廊下との隙間に落ちないよう軽く浮かします。
エレベーターの乗り降りでは、中で方向転換できないエレベーターや混雑している場合は、前向きで入って後ろ向きにでる、あるいは後ろ向きで入って前向きに出るなどいろいろな方法があります。

【１１】階段の上り下がり

４人で持ち上げる場合は両サイドに一名ずつ、左右のハンドルに一名ずつ、３名の場合は両サイドに一名ずつ、バンドルに一名で持ち上げます。お客様にとって階段を上がり下がりすることは１つ間違えば車いすごと落ちてしまう大変怖いことです。車いすを持ち上げる時は、各支援者が車いすの同じ個所を持ち、声を掛け合い確認をしてください。支援する場合は、命を預かっていることを認識して、力を合わせて持ち上げてください。

１．車いすを持ち上げる時の注意事項

１） ハンドルとレッグレストパイプ(キャスター上部)を持ちます。アームレストやバックレストが取り外せる車いすの場合、**着脱できる部分を持たない**ように注意してください。

２） 車輪やハンドリムは、ブレーキをかけていても動く場合があります。構造上その部分を持たなければ持ち上げられない場合以外は、持たないようにしてください。

２．上がる場合

１） 階段下で車いすにブレーキをかけます。

２） 介護者は、声をかけてタイミングを合わせて、車いすを持ち上げます。

３） 歩調をあわせて、ゆっくりと階段を上がります。

３．下がる場合

１） 階段上で車いすを後ろ向きにしてブレーキをかけます。

２） 介護者は、声をかけてタイミングを合わせて、車いすを持ち上げます。

３） 歩調をあわせて、ゆっくりと階段を下がります。

【１２】エスカレーターの上り下り

車いすのままエスカレーターで上り下りをすることができます。危険が伴いますので自信が無い場合は無理をせずにエスカレーターの管理者にお願いしましょう。 **※基本的には行わないでください**

１．上がる場合

１） キャスターを上げ、前向きでエスカレーターに乗ります。

２） 階段状になりはじめたら、一つ上の段の角に後輪をしっかり押し当てて安定を図ります。

３） 階段状から平坦になりはじめたら、キャスターを下し、エスカレーターと廊下が見えたら、通行の邪魔にならないところまで行き、歩行転換をします。

２．下がる場合

１） キャスターを上げ、進行方向に乗ります。

２） 階段状になりはじめたら、段の角に後輪をしっかり押し当てて安定を図ります。

３） 階段状から平坦になりはじめたら、キャスターを上げたまま、エスカレーターと廊下の境を越えキャスターを下ろし、そのままスムーズに直進します。

【１３】電車の乗り降り

電車に乗り降りする場合、車両とホームとの間に段差があり、乗降しにくい場合が多い為、駅員に介助やスロープ利用などの対応をお願いしましょう。

１．電車に乗る場合

電車に乗る場合は前向きでキャスターを上げて乗り込みます。電車に対して必ず直角になるように進みましょう。斜めになると段差を上がるのが不安定になりますので注意してください。

２．車内

車内では進行方向に対して直角に車いすをとめ、必ずブレーキを掛けて下さい。
車いすは出来るだけ乗降口の近くに止めておきます。ですが、頻繁に開くドア前は避けましょう。車いすのトラベルヘルパーは遠くに席が空いていても車いすから離れることはできませんので、乗降口の近くに座っている人は他に席が空いている場合は譲ってあげると良いでしょう。

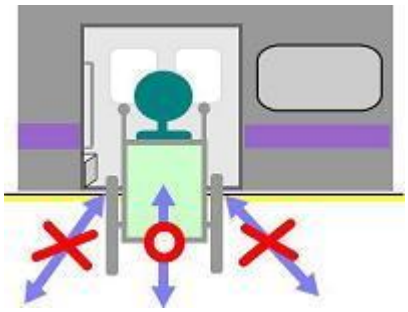
３．電車を降りる場合

電車を降りる場合は乗るときとは逆に後ろ向きで降ります。電車に対して必ず直角になるように後退します。斜めになると車輪が不安定になりますので注意してください。　電車とホームに高さが生じる場合、スロープの傾斜が大きいため後ろ向きに出るのが安心でしょう。

電車に乗る場合

電車を降りる場合

電車に対して直角に乗降



【参考】http://home.c00.itscom.net/t2oho4no/fukusitaiken/kurumaisu/kurumaisu.htm

3．杖歩行の基本知識

【1】歩行の種類

1．自立

歩行動作が安定しており介助・見守りを必要としない状態です。（独歩だけでなく福祉用具を使えば自立する場合もあり）

2．見守り

歩行中転倒のおそれがある場合は、直接身体に触れることはせず、ふらついた時すぐお客様を支えられる位置に付き添って歩きます。

3．介助

一部介助　トラベルヘルパーがお客様の手を引く、腰を支えるなどの方法で歩行の安定を保てる場合があります。

4．全介助

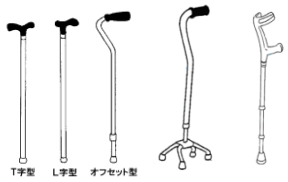
歩行できない方は車いすなどをご利用いただきトラベルヘルパーがお客様の足代わりとなり移動します。

福祉用具を使わない→独歩・トラベルヘルパーの手をかりる
福祉用具を使う→杖・歩行器・車いす
◆歩行時の介助位置また、ふらついた時に直ぐ手が出せる距離に立ち、片麻痺等がある場合は、転倒の可能性が高い患側に立ちます。

【2】杖歩行のポイント

1．杖の種類

T字つえ・四脚つえ（四点支持つえ）・ロフストランドつえ



2．杖の基本

1） 杖は常に健側の手で持ちます。トラベルヘルパーは患側に立ち、前倒れ・後ろ倒れともすぐ手が出せる位置で介助します。
2） なるべくお客様の進行方向視界を妨げないようにします。
3） 杖の長さは、足の横から１５ｃｍ程度のところに杖先を突いた時、肘がわずかに曲がる（内角 120～150 度）程度がよいとされています。お客様の体格にあわせ調整して下さい。握力などを考慮して杖の種類を選びましょう。また、靴は着脱が容易で、すべりにくいものを選びましょう。
4） 杖先の磨耗や損傷がないかチェックし、傷みが激しいときは適切な処置を行います。
5） お客様の障がいや筋力程度により、膝折れに不安がある場合は、補装具、サポーター等を利用します。

2．平地での歩行

1） トラベルヘルパーは、原則としてお客様のやや斜め後ろ、患側に立って介助します。
2） 上体をまっすぐ伸ばして歩くようにしますが、不安定な場合は、安全ベルトなどを腰につけてトラベルヘルパーがいつでも支えられるようにしておきましょう。
3） 静かに立ち、歩行を開始させます。まず杖を一歩前に出して、次いで患側の足を出させます。さらに健側の足を患側の足に揃えるか、半歩程前に出させます。これを繰り返しながら歩きます。

3．階段の昇降

1） 階段を上る場合は、健側の足から上ります。可能な限り手すりを利用しますが、杖はループのついたものを利用し、不要時は手首に通しておきます
2） 健側の足で一段上がり、患側の足を同じ段に揃えて上がります
3） 階段を下りる場合は、患側の足を先に一段下ろします。次いで健側の足を同じ段に揃えて下ろします。これを繰り返し下ります
4） トラベルヘルパーはお客様の体位が安定しているかどうか注意深く観察すると同時に、上りではトラベルヘルパーが後方から、下りでは前方で転落の危険がないように見守ります

4．お出かけ時の車いす介助の注意点

【1】お出かけ前の確認

1．　トラベルヘルパーとしての準備（動きやすい履きなれた靴、両手が空くようなバッグ、レインコート、ビニール袋、手袋など）
2．　ご挨拶とお客様の状態確認（体調・介助内容の確認、天候に合う服装など）
3．　持ち物確認（ひざ掛け・クッション・薬・チケットや寒さ・暑さ対策、水・お茶など）
3．　車いすチェック（タイヤの空気圧、ブレーキ、フットレストなど）
4．　その他（シートベルトなどお客様の必要に応じた持ち物）

【2】屋外で車いすを押す時の注意点

1．　お客様の靴の先が前を歩く人にぶつからないようにする（車いすは、徒歩よりスピードが速くなるのが普通です。車いすを押しているとお客様の足先が見えないので、前を歩く人との距離に注意しましょう）
2．　車いすのスピードに注意。人によっては早いと不安に感じる方もいますので、お客様の様子を確認しながら進みましょう。
3．　周りを歩く人は、車いすに気づかないことが多いので、注意します。（車いすは視界に入りにくいのです）
4．　歩きながら、こまめに言葉がけをします。静かな時は、眠っているのか、体調不良なのか、滑り落ちることがあるので、注意深く気遣いましょう。

【3】路上での注意点

1．　信号待ちの間、踏切前など、停車時には、必ずブレーキをかけることを徹底しましょう。
2．　信号のある横断歩道を渡るときは、余裕をもって渡りましょう。
3．　路地寄りの車、自転車、子供の急な飛び出しに注意しましょう。
4．　歩きたばこをしている人に注意しましょう。
5．　地面に凹凸がある場合には、振動を最小限に抑えるように工夫しましょう。
6．　その他、常に危険を察知し、事前に防げるようにしましょう。

【4】坂道にて車いすを押す時の注意点

1．　トラベルヘルパーは基底面を大きくとり、重心を安定させて車いすを押します。自分自身が転ばないように、段差や障がい物に注意しましょう。
2．　斜度が大きい場合は、後ろ向きに進みます。どのくらいの斜度で、後ろ向きに進むかはお客様と相談しましょう。
3．　腕の力に頼らずに、自分の体重を利用して車いすを支えます。危険に備えて、いつでも止まれるように介助しましょう。

【5】電車を利用する時の注意点

1. 常に時間に余裕をもって行動しましょう。
2. 乗車前に駅員に車いす利用の旨を伝え、補助を依頼、降車駅を伝えます。
3. 電車を利用するときは、基本的には駅員に誘導をお願いするのが望ましいです。
   利用予定の列車の乗車ポイントまで駅員が誘導し、スロープの設置、乗車時の車いす操作も行ってくれます。乗車駅の駅員が、降車駅に連絡を入れ、到着時間に合わせてスロープを用意した駅員を下車位置に手配してくれます。
4. 駅により設備が違うため、乗降時の動線や改札口までのルートが違います。また、駅員によって介助技術、対応がまちまちなこともあります。駅構内での車いす操作は基本的には駅員が行いますが、トラベルヘルパーが不安を感じるようなら誘導だけお願いし、トラベルヘルパー自身で介助は行いましょう。
5. 駅のバリアフリー設備は様々です。（エレベーターが完備された駅、エスカレーター、階段昇降機（エスカル等）設置の駅、階段しかない駅など）バリアフリー設備が全くない駅の場合は、複数の介助人員確保のために、前もって連絡しておくことも必要になります。
6. 電車内の位置は、進行方向に対して直角にとめ、車いす用スペースがない車両の場合は、頻繁に開くドア前は避けます。
   車いすは、しっかりブレーキをかけて停車し、車いすのステップと靴の先が他の乗客にぶつからないように注意します。
   また、自分自身が倒れないように注意をしましょう。座席に座る場合も急ブレーキに備えて、トラベルヘルパーは必ず手の届く距離にいるようにします。
7. 混雑した車内では、周囲に声をかけ車いすお客様の存在を知らせます。また、倒れる人や、荷物がぶつからないように注意し、トラベルヘルパーは車いすの前側に立ち、混雑からお客様を守るようにします（通常は後ろか横に立ちます）。
8. 車窓からの景色が見えるようにし、会話をしながら、退屈にならないように、このあとの予定などを話し合うといいでしょう。

【6】じゃり道にて車いすを押す時の注意点

1. 前輪(キャスター)がじゃりにとられ、前に進みにくくなるので、
   お客様に合った進み方法を考えましょう。
   ①前輪を上げて進む　②後方に進む
2. できるだけ障がいの少ない道を選び、疲れないためにも、最短距離を行けるように、事前に経路を調べておきましょう。
3. 自分の体力、技術に合った方法を見つけ、必要なら、自分なりの補助具を用意しましょう。
4. お客様に不安を与えないように、自分自身が自信を持つことが大切です。
5. 周りに協力を求められるなら、求めるといいでしょう。

【7】人ごみにて車いすを押す時の注意点

1. 周囲を歩いている人に、車いすの方が通ることを知らせながら進みます。
2. 店舗においては、客は品物を見ることに夢中になっているので、傍に車いすがいても気づいてもらえないことが多いので気をつけましょう。
3. 二人以上で介助している場合は、お客様の前後を歩き、前の人が周囲に注意を促しながら進みましょう。
4. 周囲の人のバッグなど、荷物がぶつからないように注意しましょう。
5. 車いすに気づかずに躓いて、倒れかかってくる恐れがあるので注意しましょう。

5.実地体験

【1】実地研修行程

日本トラベルヘルパー協会オフィス ―― マークシティビル ―― ＪＲ渋谷駅：山手線（玉川口改札）～～～～～

～～ ＪＲ原宿駅（表参道口）――明治神宮【じゃり道体験】―― 昼食休憩 ―― 竹下通り・表参道【人ごみ体験】――

―― 地下鉄・表参道駅：東京メトロ半蔵門線（B3）＝＝＝＝＝ 東京メトロ渋谷駅（13a）――――

―― 道玄坂・屋外ルート【悪路の坂道体験】―――― 日本トラベルヘルパー協会オフィス

記号：--- 徒歩　～～～ ＪＲ　＝＝＝ 地下鉄(メトロ)

【2】明治神宮の情報（じゃり道）

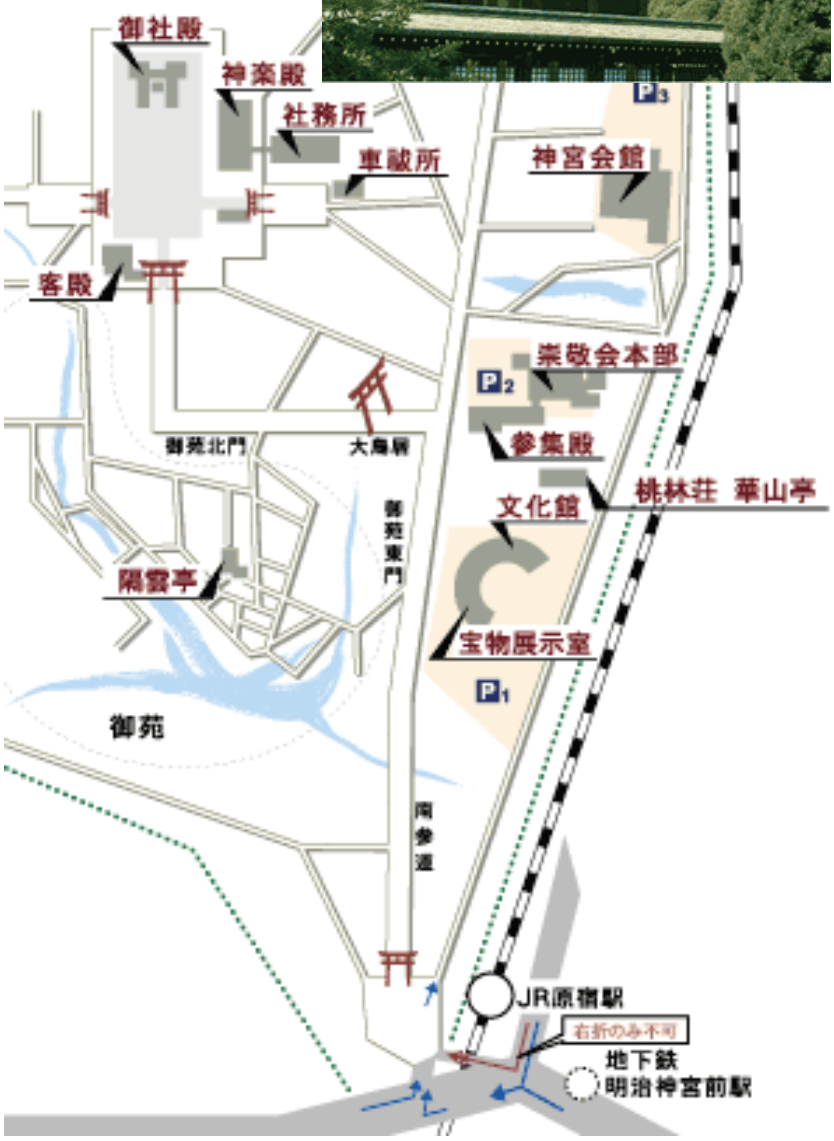
明治神宮とは

明治神宮は明治天皇と昭憲皇太后をお祀りする神社で、清らかで森厳な内苑を中心に、聖徳記念絵画館を始め数多くの優れたスポーツ施設を持つ外苑と、結婚式とセレモニー、パーティー会場の明治記念館とからなっています。

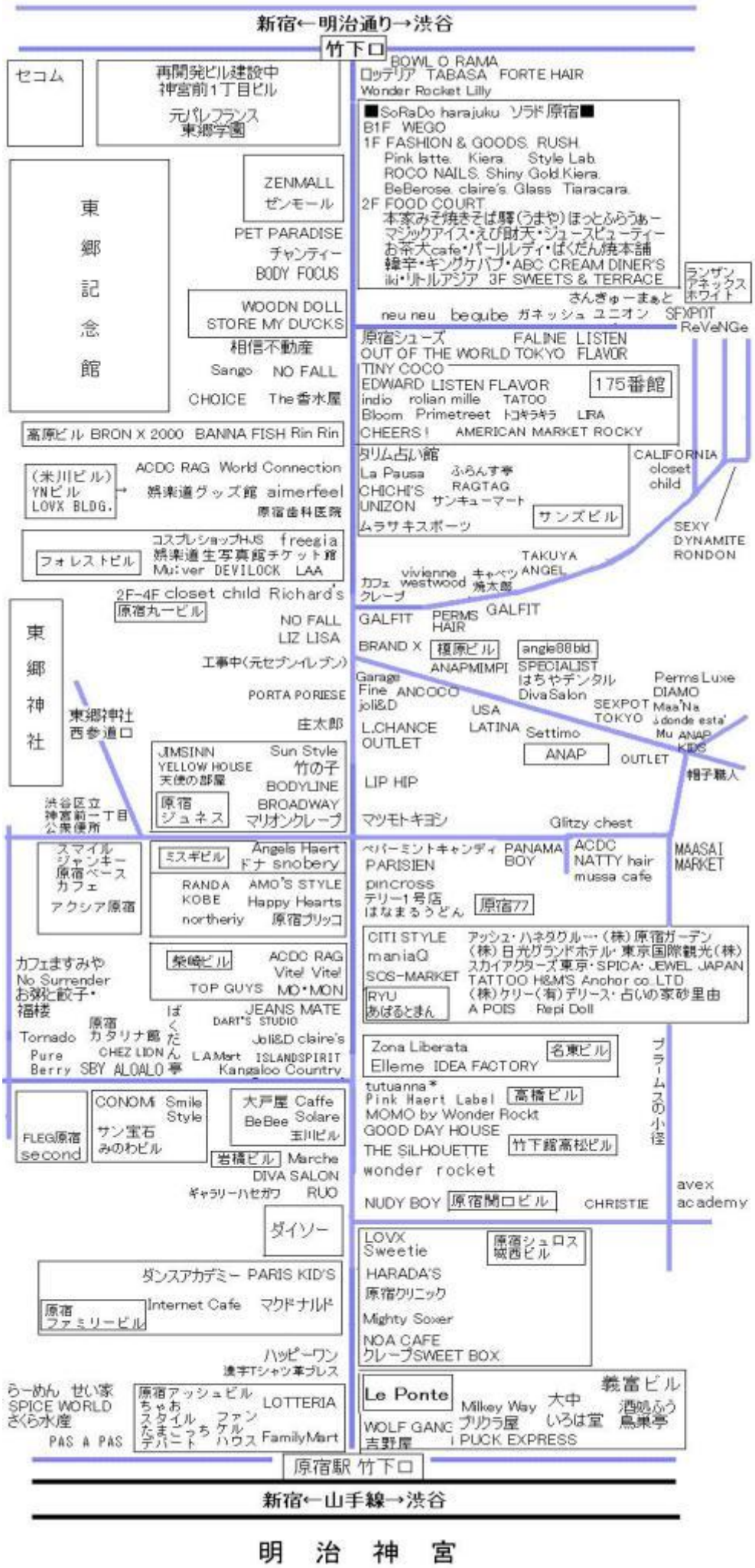
内・外苑一帯にわたって鬱蒼と茂った緑したたる常磐の森は、神宮御鎮座にあたり、
全国から献木されたおよそ10万本、365種の人工林で、
面積は70万平方メートル、
国民の心のふるさと、憩いの場所として親しまれています。

初詣は例年日本一の参拝者数を集める神社としても知られます。そのほか、大相撲横綱土俵入りや、こどもの祭まで幅広い祭典と行事、厄祓い、祈願をとりおこなっております。加藤清正が掘ったと言われる清正の井や明治天皇のおぼしめしにより昭憲皇太后のために植えられた、美しい花菖蒲など、多くの見どころがあります。

明治45年7月30日に明治天皇、大正3年4月11日には昭憲皇太后が崩御になりましたが、国民から御神霊をお祀りして、御聖徳を永遠に敬い、お慕いしたいとの熱い願いが沸き上がり、大正9年11月1日（1920年）に両御祭神と特にゆかりの深い、代々木の地に御鎮座となりました。



【3】竹下通り・表参道の情報（人ごみ）



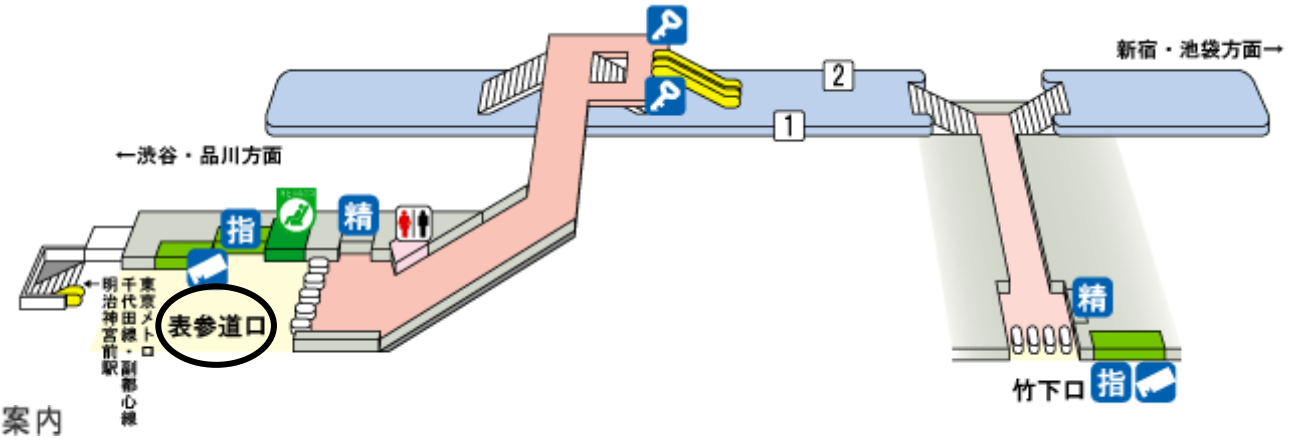
【 JR渋谷駅 】

■のりば案内

1 山手線〈新宿・池袋方面〉
2 山手線〈品川・東京方面〉
3 埼京線・湘南新宿ライン〈新宿・ 大宮方面〉
〔成田エクスプレス〕
4 埼京線・湘南新宿ライン〈大崎・横浜方面〉
〔成田エクスプレス〕

©KOTSUSHINBUNSHA

【JR原宿駅】



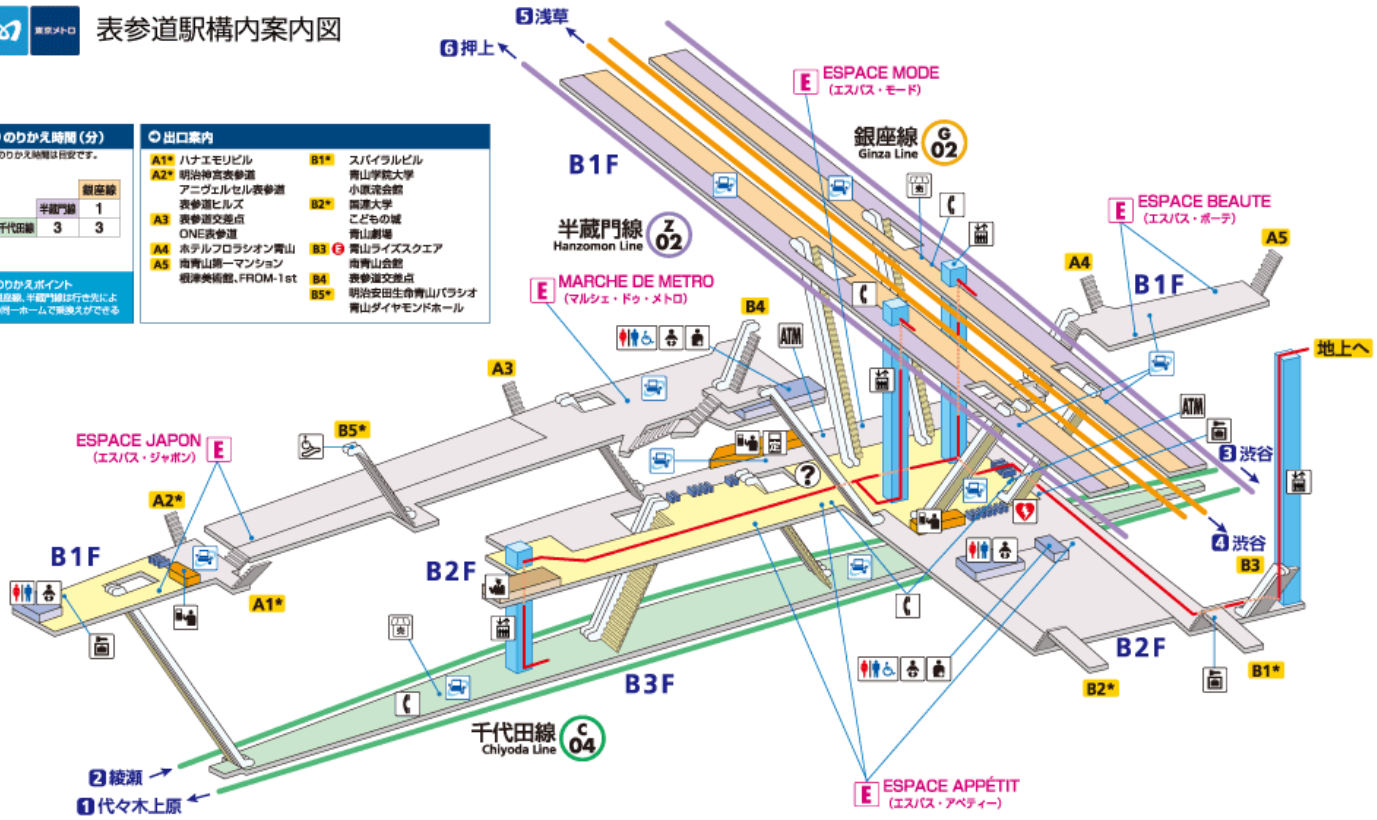
■のりば案内

1 山手線内回り〈渋谷・品川方面〉
2 山手線外回り〈新宿・池袋方面〉

©KOTSUSHINBUNSHA

みどりの窓口　びゅうプラザ　精算所　きっぷ売り場　コインロッカー
トイレ　車椅子用トイレ　エスカレーター　エレベーター　インフォメーションセンター お客さま相談室
えきねっと券売機　指定席券売機

表参道駅構内案内図



のりかえ時間（分）

※のりかえ時間は目安です。

	銀座線
半蔵門線	1
千代田線	3	3

のりかえポイント
銀座線、半蔵門線は行き先により同一ホームで乗換えができる

出口案内

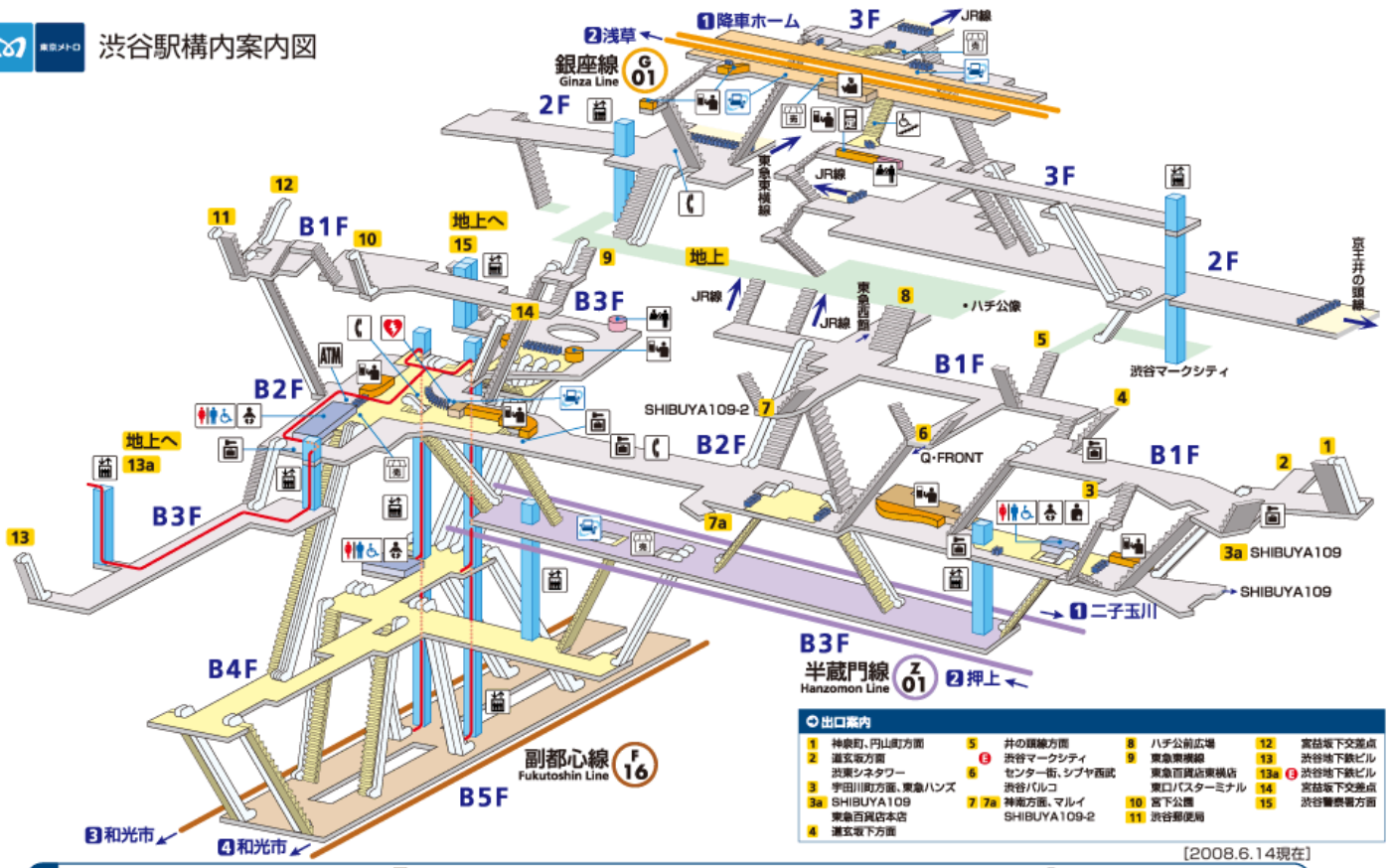
- A1* ハナエモリビル
- A2* 明治神宮表参道 / アニヴェルセル表参道 / 表参道ヒルズ
- A3 表参道交差点 / ONE表参道
- A4 ホテルフロラシオン青山
- A5 南青山第一マンション / 根津美術館、FROM-1st
- B1* スパイラルビル / 青山学院大学 / 小原流会館
- B2* 国連大学 / こどもの城 / 青山劇場
- B3 E 青山ライズスクエア / 南青山会館
- B4 表参道交差点
- B5* 明治安田生命青山パラシオ / 青山ダイヤモンドホール

E Echika　[2010.8.1現在]

凡例

- 改札内階段
- 改札外階段
- エスカレーター
- 改札内 / 改札 / 改札外
- B1 出口　E 地上行エレベーター
- A5* *利用に時間制限のある出口
- きっぷうりば
- 継続定期券発売機
- 駅事務室/お忘れ物取扱い所
- 定期券うりば/精算所
- AED(自動体外式除細動器)
- トイレ
- 車いす対応トイレ
- 乳幼児用設備
- オストメイト
- エレベーター
- 車いすスロープ
- 車いす対応エスカレーター
- 階段昇降機
- バリアフリー移動経路
- 係員が対応する移動経路
- 案内所
- 触知図案内板
- 待合室
- 公衆電話
- ロッカー
- 売店
- メトロピア
- ATM
- メディアスポット
- 無線LAN

渋谷駅構内案内図



出口案内

- 1 神泉町、円山町方面
- 2 道玄坂方面 / 渋東シネタワー
- 3 宇田川町方面、東急ハンズ
- 3a SHIBUYA109 / 東急百貨店本店
- 4 道玄坂下方面
- 5 井の頭線方面
- E 渋谷マークシティ
- 6 センター街、シブヤ西武 / 渋谷パルコ
- 7 7a 神南方面、マルイ / SHIBUYA109-2
- 8 ハチ公前広場
- 9 東急東横線 / 東急百貨店東横店
- 東口バスターミナル
- 10 宮下公園
- 11 渋谷郵便局
- 12 宮益坂下交差点
- 13 渋谷地下鉄ビル
- 13a E 渋谷地下鉄ビル
- 14 宮益坂下交差点
- 15 渋谷警察署方面

[2008.6.14現在]

凡例

- 改札内階段
- 改札外階段
- エスカレーター
- 改札内 / 改札 / 改札外
- B1 出口　E 地上行エレベーター
- A5* *利用に時間制限のある出口
- きっぷうりば
- 継続定期券発売機
- 駅事務室/お忘れ物取扱い所
- 定期券うりば/精算所
- AED(自動体外式除細動器)
- トイレ
- 車いす対応トイレ
- 乳幼児用設備
- オストメイト
- エレベーター
- 車いすスロープ
- 車いす対応エスカレーター
- 階段昇降機
- バリアフリー移動経路
- 係員が対応する移動経路
- 案内所
- 触知図案内板
- 待合室
- 公衆電話
- ロッカー
- 売店
- メトロピア
- ATM
- メディアスポット
- 無線LAN

～ MEMO ～

特定非営利活動法人　日本トラベルヘルパー協会

〒150-0043東京都渋谷区道玄坂1丁目19番13号 トップヒル並木ビル10階

電話03-6415-6483　/　FAX03-6415-6488

http://www.travelhelper.jp/　　E-mail:　tokyo@travelhelper.jp

発行＝特定非営利活動法人 日本トラベルヘルパー協会編集人＝篠塚 恭一

住所＝〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1 丁目19 番13 号ﾄｯﾌﾟﾋﾙ並木ﾋﾞﾙ10 階電話＝03-6415-6688 FAX03-6415-6488

E-mail＝ tokyo@travelhelper.jp URL＝ www.travelhelper.jp配信＝SPI トラベルヘルパー教育研修チーム

Copyright (C) 株式会社SPI あ･える倶楽部社内用･ 社外用を問わず無断複製(電子的複製を含む)を禁ずる

Copyright (C) 2010 SPI(Japan),INC. All Rights Reserved.